

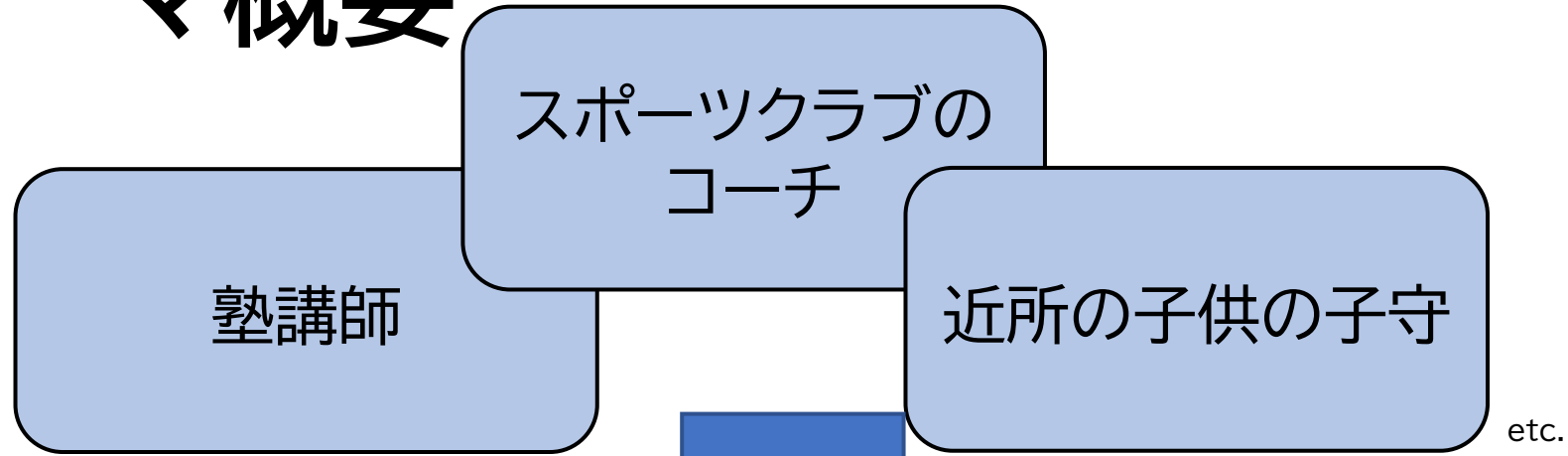
社会教育班

三宮勇 村上俊輔 柳下祐徳

目次

- ① テーマ概要
- ② 訪問した各施設・団体
 - 1. み・らいず2
 - 2. あっとすくーる
 - 3. たまなび
 - 4. Work and Play SOSHIGAYA
- ③ まとめと考察

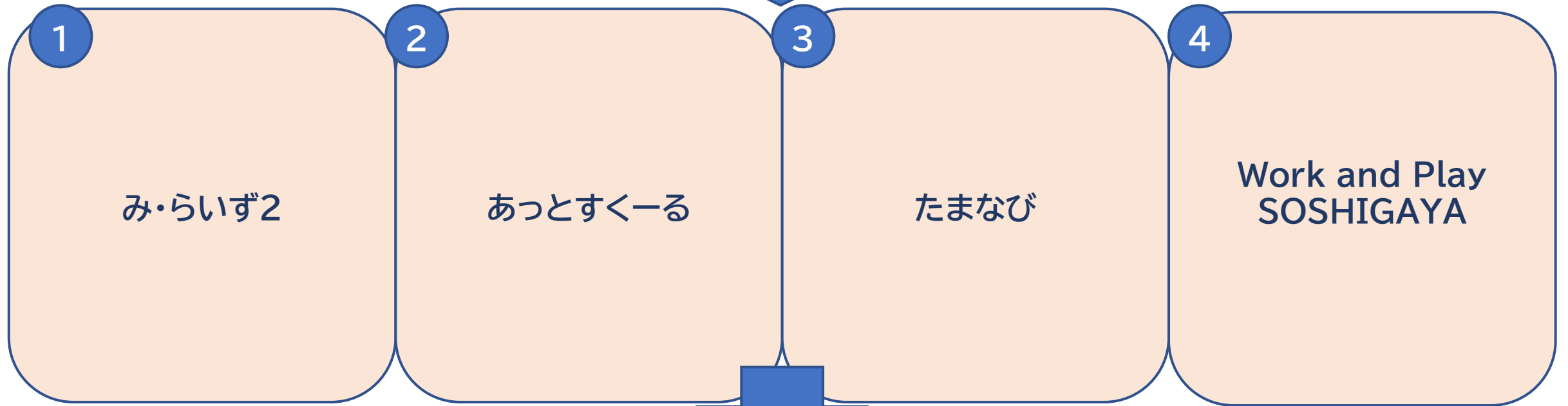
①テーマ概要



なぜ大学生？

子どもに関する問題解決に大学生が関わる意義

Q.なぜ大学生なのか



結論・考察・課題・問題提起

① NPO法人 み・らいず2



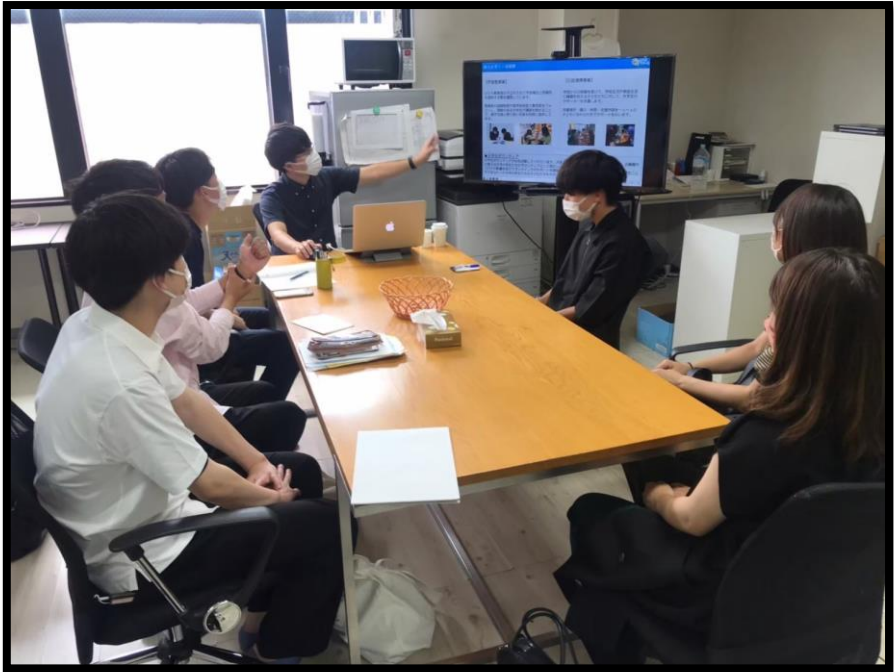
- 子ども食堂や学習支援、障がい者の外出サポート
- ボランティア募集サイトや大学の講義で大学生を募集
- 職員数43人(学生は200人程度参加)



目的

障がい者や不登校児、生活困窮世帯の子どもの支援

② NPO法人あっとすくーる



- 学習支援事業「渡塾」
- 一般的な塾としての機能×ひとり親家庭の支援

目的①

子どもの将来の選択肢を広げる

目的②

「ひとり親家庭」への理解

3 たまなび

多摩ソーシャルデザインセンター



- 神奈川県川崎市多摩区の事業の一環
- 多摩SDCの大学生が応募した大学生に事業を体験
→高校生～社会人まで様々な方々が在籍
- 三宮・柳下は実際に参加

目的①

地域の場所の活用方法を知る

目的②

子ども達と触れ合う中で創造性を膨らませる



4 Work and Play SHOSIGAYA



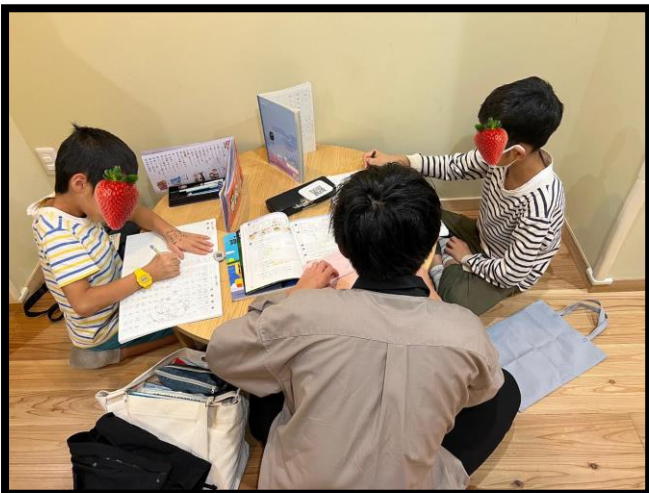
- 世田谷区 子どもの学び場運営スタートアップ事業
- ボランティア募集サイトで大学生を募集
→大学生は子供に勉強と遊びを通じて一緒に時間を過ごす
- 村上は実際に参加

目的①

地域の豊かさを形成

目的②

子育て世代支援



まとめ 子ども×大学生

年齢的に子供と接しやすい

子どもにとっての理想像になってもらう
(見本になってもらう)

発想力を活かす・育てる

大学生に理解者になってもらう

1

み・らいず2

2

あっとすくーる

3

たまなび

4

Work and Play
SOSHIGAYA



子どもと接する機会(学校ではない・現場)

→柔軟性・社会性が生まれる

(社会に出る前に)自分の持つ偏見に気づき、理解する機会